

CONTENTS

- ・「学長と学生による教育に関する懇談会」開催報告
- ・「第5回IPUミーティング」開催報告
- ・編集後記

「FD(Faculty Development)」とは、大学教員が授業内容や方法等を改善し、教育能力を向上させるための実践的な取り組みです。

「学長と学生による教育に関する懇談会」開催報告



学生参画型FD活動の一環として毎年恒例の行事である「学長と学生による教育に関する懇談会」を、10月4日(木)に開催しました。各学科・学年から計32名が参加し、学長、学務副委員長、FD企画運営部会員、教務課職員、教育推進室職員と共に活発な意見交換を行いました。

まず第一部として、学科ごとに8グループに分かれてグループミーティングを行いました。学科単位での縦のつながりを重視し、4名1組の各グループは1年生から4年生までが1名ずつ入り、学年別の事情を話し合える場となりました。各グループには教員が1名ずつ加わるとともに、学長が各テーブルをラウンドして、直接意見交換がなされました。その

後、第二部では、各グループの代表者が話し合った内容を発表し、参加者全員で他学科の様子を共有しました。

学生からの意見や要望に対しては、その場で回答されたものもありますが、さらにFD企画運営部会や学務委員会に報告し、関係部署とも連携しながら善後策が検討されていきます。

工藤学長インタビュー「学長と学生による教育に関する懇談会」を終えて

まずは、うちの学生の真剣さや真面目さに感心しましたね。これは昨年の懇談会でも感じたことですが、自分本意ではない客観的な意見が出されていて、将来に対して自分の進むべき方向性を明確にもつ学生たちならではの「強さ」や「たくましさ」が、とても印象的だった。今回は、初の試みとして同じ学科の1年から4年までの学生が小グループでディスカッションしてみましたが、先輩と後輩と一緒に話せる機会となって良かったようだね。

それぞれの学科特有のカリキュラム上の意見や質問も具体的に出ているから、今後は、学科単位の懇談会があってもいいかなと思いました。やはり学長という立場では、各学科の授業につ



いて細かい背景をふまえて説明するというには限界もありますしね…。

できれば、学生の中に「タテのつながり」が強くなるような何らかの工夫をしていきたいと思います。たとえば、学生研究の発表会や実習の報告会のようなときに、他の学年の学生も参加して、一緒に意見交換したりできれば、現行のカリキュラムの範疇でも十分対応できるのではないかなと思うのですが、どうかな…。この他にも設備のことについても意見が出ていたし、すぐに対応できることもありそうだから、さっそくいろいろ考えているところです。

——インタビューのため学長室にうかがうと、学生からの意見リストに基づいて、学習環境の改善策などへの対応に着手中でした。またどうすれば、学生のためになるかについて、学長のアイデアはとめどなく溢れてきますので、私も負けないように知恵を絞ります。学長の熱意に大きく包まれたインタビュータイムでした。(聞き手:富田美加)

「第5回IPUミーティング」開催報告



茨城県の財政は、三位一体改革による地方交付税の大幅削減や県税収入の伸び悩み、東日本大震災の復興経費や社会保障関係費等の増加により、極めて厳しい状況が続いています。このような状況下における本学の予算状況や予算執行における留意事項について理解を深めるため、「本県の財政状況と本学予算の現状等について」と題して、9月26日(水)に第5回IPUミーティングを開催しました。

工藤学長による趣旨説明では、大学は人材育成の要であるとともに、知の集積としての大きな役割を担っており、これらの成果を社会に還元していくことが求められていることが重要であることが話されました。

事務局長による講演では、茨城県の財政状況について「いばらき家の家計簿」(茨城県ホームページ参照)に例えてのわかりやすい解説とともに、本学予算の現状について構造図による具体的な説明がなされました。引き続き、総務課経理係より、本学予算の推移について説明があり、教員による科研費や外部資金獲得は重要な意味をもつことが話されたほか、具体的な経理業務について、変更点や留意点についての説明がありました。

質疑応答では、教員より変更事項の追加確認や日頃の疑問点などが出され、その各事項について事務局から経緯や趣旨を含めた回答がなされました。教員は日常の予算執行プロセスにおいて、小さな疑問を抱いていても個々のレベルで自己完結することが多くありました。また新任教員に対しては、予算執行をはじめとするFD研修が設定されていますが、長年勤務している教員ほど最新の変更事項についての情報にアクセスしにくいといったことも少なからず生じていました。今回、一堂に会して、本学を取り巻く昨今の情勢や、大学予算に係る事項についての知識を深め、教育の観点から認識を深めることの重要性について共有する貴重な機会となりました。

編集後記

本学では、さまざまな形態のFD活動を実践しています。まず大きなものは、集合型の「全学FD研修会」であり、学年暦に明示された日に開催されます。その他に、「新任教員FD研修会」や「公開授業」、学生を対象とした各種満足度調査などがあります。また、多様なニーズに応じられるよう「IPUミーティング」を開催して、いろいろなテーマにチャレンジしています。FDネットワークつばさへの加盟により他大学と連携できるよう努力しています。引き続き、社会動向など本学を取り巻く情勢を鋭く見つめつつ、本学ならではの個性をふまえた魅力と実効性を兼ね備えたFD活動をめざしていきたいと思っています。(FD企画運営部会長 富田美加)